

国際シンポジウム「地域研究と社会諸科学」の開催について

標記国際シンポジウムが下記により開催された。

記

1. 期間 昭和62年11月9日(月)～11月12日(木)
2. 会場 本学 3401 番教室
3. 参加者 内外招へい者(別掲), 内外研究者,
本学学生, ジャーナリスト 等

(1) 外国人招へい者(順不同)

- | | |
|-------------------|-----------------------------------|
| エドワード・T・ホール (米) | ノースウエスタン大学名誉教授 |
| ミルドレッド・R・ホール (米) | エドワード・T・ホール研究室研究員 |
| チャルマーズ・ジョンソン (米) | カリフォルニア大学バークレー校教授 |
| シーラ・K・ジョンソン (米) | 評論家・書評家 |
| ジョン・D・レッジ (豪) | モナッシュ大学名誉教授 |
| J・A・A・ストックウイン (英) | オックスフォード大学教授兼同大学ニッサン日本研究センター所長 |
| 金 日 坤 (韓) | 釜山大学教授兼同大学日本研究センター所長 |
| K・V・ケサヴァン (印) | ジャワハルラール・ネール大学教授兼同大学東南アジア研究センター所長 |
| クロード・カダール (仏) | フランス国立中央科学研究院国際関係研究調査センター中国・極東部長 |
| チェン・インシアン (仏) | 同上級研究員 |

(2) 国内招へい者(順不同)

- | | |
|-------|-------------------------|
| 中根 千枝 | 東京大学名誉教授 |
| 石井 米雄 | 京都大学教授兼同大学東南アジア研究センター所長 |
| 山崎 正和 | 大阪大学教授 |
| 黒田 壽郎 | 国際大学教授兼同大学中東研究所長 |
| 小田 英郎 | 慶応義塾大学教授兼同大学地域研究センター所長 |
| 板垣 雄三 | 東京大学東洋文化研究所教授 |
| 米山 俊直 | 京都大学教授 |
| 片倉もとこ | 国立民族学博物館教授 |
| 梅津 和郎 | 大阪外国語大学教授 |

- | | |
|-------|------------------|
| 加賀谷 寛 | 大阪外国語大学教授 |
| 宇野 重昭 | 成蹊大学教授 |
| 有賀 貞 | 一橋大学教授 |
| 松本 三郎 | 慶応義塾大学教授 |
| 飯田 経夫 | 名古屋大学教授兼同大学経済学部長 |
| 渡辺 利夫 | 筑波大学教授 |
| 猪口 孝 | 東京大学東洋文化研究所助教授 |
| 中村 光男 | 千葉大学教授 |

(3) 実行委員会(学内関係者)

- (委員) 中嶋嶺雄(委員長), 山之内靖(副委員長), 小浪 充(副委員長), 二宮宏之, 田中忠治, 中村平治, 新田 実, 田中治男, 清水 透, 上村忠男
- (顧問) 長 幸男(学長), 梅田博之(アジア・アフリカ言語文化研究所長), 宮川 透(地域研究研究科長), 千野栄一(外国語学研究科長), 小澤重男(図書館長), 金丸邦三(学生部長), 長谷川善一(事務局長)

4. 日程

- ◆11月9日(月): 池袋サンシャイン60ビル, 59階トリ
アノン, 桜の間
- 16:00～17:00 受付
17:30～19:30 歓迎レセプション
- ◆11月10日(火): 東京外国語大学(3401教室)
- 10:00～10:30 開会式
開会の辞 中嶋嶺雄(実行委員長)
挨拶 長 幸男(東大学長)
来賓挨拶 植木 浩(文部省学術国際局長)
- 10:30～13:00 第1セッション
「なぜいま地域研究か?」
報告者: ジョン・D・レッジ(オーストラリア)
小浪 充(東外大)
- 11:20～11:30 — コーヒー・ブレイク —
ディスカッサント: クロード・カダール(フランス)
清水 透(東外大)
座 長: 新田 実(東外大)
- 14:30～17:00 第2セッション
「地域研究と社会科学」
報告者: チャルマーズ・ジョンソン(アメリカ)
山之内 靖(東外大)
- 15:20～15:30 — コーヒー・ブレイク —
ディスカッサント: チェン・インシアン(フランス)
上村 忠男(東外大)
座 長: 田中 治男(東外大)

とうまつめり

◆11月11日(水)：東京外国語大学(3401教室)

10:00~12:30 第3セッション

「地域研究と文化人類学」

報告者：エドワード・T・ホール(アメリカ)

中村 光男(千葉大)

10:50~11:00 ————コーヒー・ブレイク———

ディスカッサント：シーラ・K・ジョンソン

(アメリカ)

川田 順造(東外大AA研)

座長：二宮 宏之(東外大)

14:30~17:00 第4セッション

「現代史におけるアジア地域研究」

報告者：K・V・ケサヴァン(インド)

中村 平治(東外大AA研)

15:20~15:30 ————コーヒー・ブレイク———

ディスカッサント：クロード・カダール(フランス)

石井 米雄(京大)

座長：田中 忠治(東外大)

◆11月12日(木)：東京外国語大学(3401教室)

10:00~13:00 第5セッション

「日本および東アジア地域研究」

報告者：J・A・A・ストックウィン(イギリス)

金 日 坤(韓国)

宮川 透(東外大)

中嶋 嶺雄(東外大)

11:40~11:50 ————コーヒー・ブレイク———

ディスカッサント：中根 千枝(東大名誉教授)

山崎 正和(大阪大)

座長：長 幸男(東外大)

14:30~16:40 第6セッション

「総括パネル・ディスカッション」

パネリスト：ミルドレッド・R・ホール(アメリカ)

飯田 経夫(名大)

米山 俊直(京大)

猪口 孝(東大)

15:30~15:40 ————コーヒー・ブレイク———

渡辺 利夫(筑波大)

黒田 壽郎(国際大)

座長：チャルマーズ・ジョンソン(アメリカ)

中嶋 嶺雄(東外大)

16:40~16:50 閉会式

閉会の辞 小浪 充(実行副委員長)

17:00~19:00 送別懇親会(4号館6階大会議室)

国際社会の諸関係がきわめて多方面に展開されつつある状況下で、それぞれの集団や民族が国家として、あるいは国家の枠を超えてかかえている問題群を内在地に地域研究(Area Studies)の重要性が様々なかたちで唱えられている昨今であるだけに、今回の国際シンポジウムは、数多くの教訓を私たちに与えてくれた。このような国際シンポジウムは、本学にとっても初めての試みであったが、学際的な総合科学としての地域研究の発展が従来の学問研究、とくに既成の社会諸科学にたいする挑戦となっているのではないかとの問いかけを前提としたこのような国際シンポジウムは、わが国でも初めてのものであったといえよう。

幸いにして今回のシンポジウムは、本学の長幸男学長以下、関連教官や本学事務関係諸氏の御協力、文部省学術国際局をはじめとする資金援助、それに裏方を担ってくれた学生諸君の献身的な努力のおかげで、延べ五百名前後の出席者を得て盛会であった。

討論の流れは、当然のことながら、地域研究とは何かを模索する議論を底流にしながらも、大別して二つの方向にあったといえよう。その一つは、地域研究の教育・研究のあり方やディシプリンと地域研究の関係、国際関係論と地域研究の関係さらには地域研究にとっての外国語学習のあり方などの方法論的な議論であり、他の一つは、対象地域を分析する基本視座を固有の文化的特性に求めるべきか、より普遍的な社会の制度(Institution)に求めるべきかといった討論であった。

こうした諸点をめぐって議論はときにはまっとうから対立し、ときには共鳴しながら展開されたが、いずれも知的な刺激に富むものであった。内外の第一線の研究者の白熱した討論を傍聴した参加者、院生、学生諸君には、多くの指針を与えたことであろう。

今日、地域研究の重要性はさらに大きくなりつつあり、今回の国際シンポジウムでは、言語を基礎とし、社会諸科学(ディシプリン)を学際的もしくは個別重点的に導入する総合科学としての地域研究の位置づけがかなり明確になされたことは、きわめて大きな収穫であった。

(共通講座・国際関係論 中嶋嶺雄教授)